

クロマグロの資源回復と定置網漁業の生産性向上を同時に実現する 漁獲コントロール技術の開発

1 代表機関・研究統括者

国立大学法人 東京海洋大学 秋山 清二

2 研究期間：2019～2021 年度（3 年間）

3 研究目的

クロマグロ資源は歴史的最低水準にあり、早急な資源回復が求められているため、定置網漁業において、クロマグロの漁獲抑制と他魚種の漁獲増大を同時に実現する技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 漁場環境と漁獲実態の解明

青森県内の定置網における水温、流況、漁獲量等に関するデータを収集し、クロマグロと他魚種の来遊条件に関する基礎的知見を得る。
(青森県産業技術センター水産総合研究所)

② 漁獲コントロール技術の開発

可変型昇網、カーテン網、増設金庫網による漁獲コントロール技術を開発し、クロマグロの漁獲抑制と他魚種の漁獲増大を実現する。
(株式会社ホリエイ)

③ 漁獲コントロール技術の検証

バイオテレメトリー、音響・光学カメラ、ユビキタス魚探等を用いて、本研究で開発した漁獲コントロール技術の有効性を検証する。
(東京海洋大学、水産研究・教育機構水産工学研究所)

5 達成目標

定置網によるクロマグロの漁獲量を従来の 50%以下に抑制すると同時に、他魚種の漁獲量をこれまでより 25%以上増大させる漁獲コントロール技術を開発する。

6 期待される効果・貢献

クロマグロの漁獲に関する国際ルールの履行と国内法令の遵守、クロマグロの漁獲抑制に伴う逸失利益の補填、クロマグロの資源回復による漁業者の経営安定と国民への安定供給が全て同時に実現される。

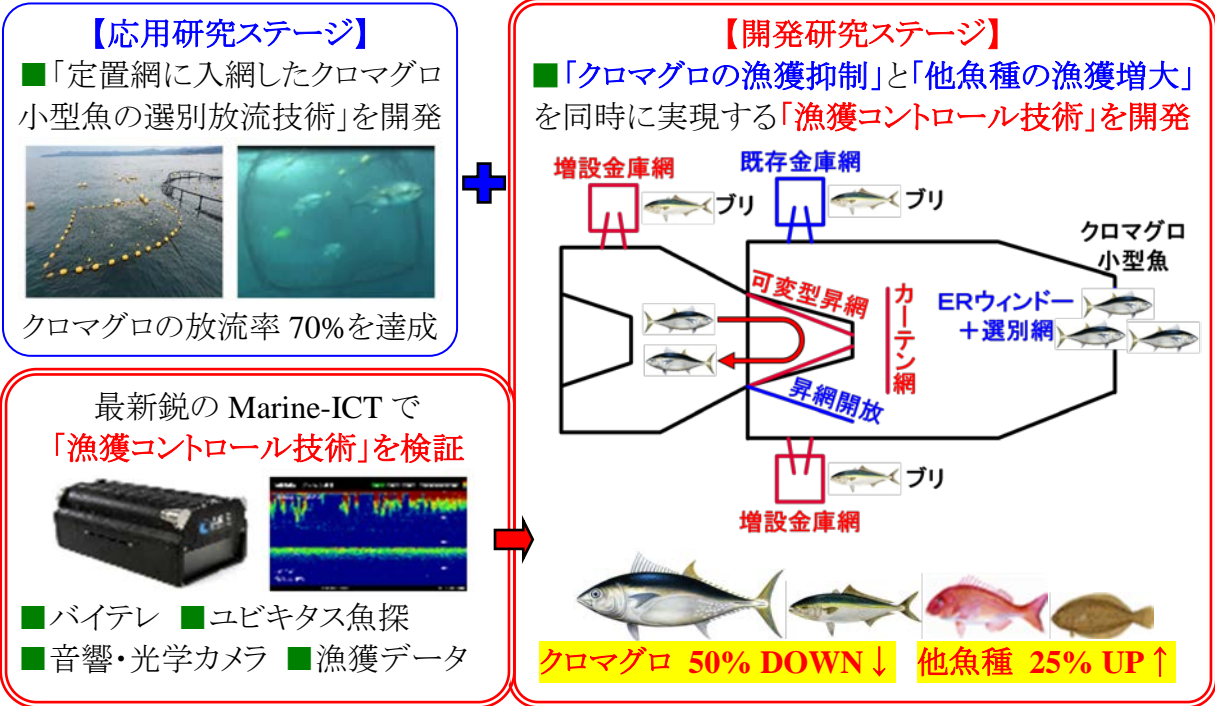
28012BC

クロマグロの資源回復と定置網漁業の生産性向上を同時に実現する漁獲コントロール技術の開発

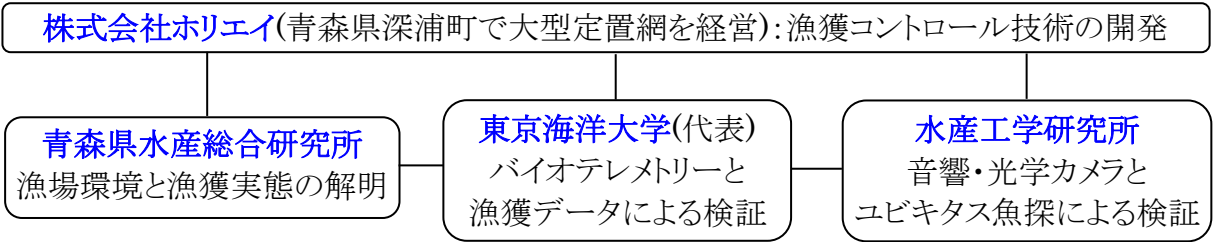
○研究の目的(背景)

- クロマグロ資源は歴史的最低水準にあり、早急な資源回復が求められている。
- 定置網で**クロマグロの漁獲抑制**と**他魚種の漁獲増大**を同時に実現する技術を開発。

○研究内容



○実施体制



○達成目標

- 定置網による**クロマグロの漁獲量を従来の 50%以下に抑制**すると同時に、**他魚種の漁獲量をこれまでより 25%以上増大**させる漁獲コントロール技術を開発する。

○期待される効果・貢献

- クロマグロの漁獲に関する国際ルールの履行と国内法令の遵守
- クロマグロの漁獲抑制にともなう逸失利益の補填
- クロマグロの資源回復による漁業者の経営安定と国民への安定供給

